

## 研究所ニュース No.104

# りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388  
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:<http://www.f-jinken.com>

2021. 2. 9 (火) 2020年度 啓発担当者のための人権講座

講演 「いのちの平等な尊厳の実現をめざして  
～新型コロナウイルス感染症が炙りだした分断と差別～」

高石伸人さん (NPO法人「ちくほう共学舎・虫の家」事務局長、筑紫女学園大学非常勤講師)

表記の講座を福岡市立中央市民センター大ホール(定員500名)で開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮し、午後だけの半日開催とし、講演のライブ配信も行いました。当日は、46名(共催の福岡市教育委員会生涯学習課関係参加者を含む)の受講者がありました。ライブ配信受講者は、32名でした。

開講行事は、本研究所新谷恭明理事長のあいさつに続いて協賛団体から部落解放同盟福岡県連合会組坂繁之委員長にあいさつをいただきました。組坂委員長は「来年2022年は全国水平社創立100周年、翌年は全九州水平社100周年の節目にあたり、部落差別解消推進法を活かして部落差別をはじめとするあらゆる人権問題の解消に向けてともに取り組もう」と話されました。続いて、高石伸人さんの「いのちの平等な尊厳の実現をめざして～新型コロナウイルス感染症が炙りだした分断と差別～」という演題の講演でした。(写真)



講演は「大切な隣人をお別れもできないまま見送り、他者を遠ざけ

ることで身を守る『新しい日常』からどんな未来が描けるのだろうか、自分が生き延びること以外に関心が持てない社会になつていいのか。」、「虫の目と鳥の目で考えみることの大切さ」という問題提起から始まり、自らが新型コロナウイルスの病歴者となった体験も含めて次のように話されました(概要)。

□新型感染症が拡大する中、国の突然の「一斉休校」が、給食を唯一の命綱としている子どもたちや一人親家庭を直撃した。「緊急事態宣言発令」は私権の制限(「外出自粛要請」という移動の自由の制限)などを伴う。無知(未知)が恐れを助長し医療従事者やその家族への嫌がらせや排除、「自粛警察」「同調的圧力」という私たちの根っこにある差別性を炙り出している。

□ハンセン病・水俣病・福島原発事故で、いのちよりも国策という少数者の人権を犠牲にしてきた同様の過ちをコロナ禍の中で再び犯してはいないか。

□いのちの価値づけと選別につながってくる「出生前検診」、「脳死」「安楽死・尊厳死」の問題など、私たちは「いのち」にどう向き合ってきたか。「『生老病死』の外部化(医療化)」という問題や、リスク社会論、経済効率性を優先して構築してきたグローバリゼーションの脆

弱性、人口爆発、産業化などの問題」、感染症との向き合い方において、なぜ、感染した人が謝罪するのか、させるのか？ 病気をすることは悪か？ 病気をすることは自己管理能力が低いと「自己責任」に転嫁し、「生活習慣病」という名付けは「健康という強迫観念」や「清潔主義」を生み出している。

□葬送とは本来死者の尊厳を守り遺族の喪失感情に配慮するものであるのに火葬の現場が「遺体からのウイルス感染」を恐れて混乱している。

□「個としてのいのち」と「つながりのいのち」を考えること。改めて今回のコロナ禍で「私たちはどういう社会、どういう人間関係の中で生きたいのかが問われている。

講演後、質疑・意見があり、最後に本研

ア／ン／ケ／ー／ト／か／ら (一部抜粋)

○感染症の拡大によって見え  
てきるもの（差別や分断の助  
長）は、それまでの人の人権教育

・人権学習の積み重ねがどう  
だったのかの「答え合わせ」  
のように思う。

○罰則付きの法律が十分な論議

がされることなく決まり、危う  
てきた差別的な現象は新しいも  
のではなく今まであったもの  
で見えるようになってきたもの  
だという認識をいただいた。

究所谷口研二事務長が講師謝辞を述べ閉講しました。

私たち自身がこれまで「いのち」と「これからの『いのち』」とどのように向き合うか問い合わせるとともに、あらためて今の社会のありようや自分の人権意識を見つめ直す必要性を考えさせるとともに、人権講座のテーマ「コロナ禍もたらす人権教育・啓発の課題」の解決に向けたヒントをいただいた講演でした。

くお詫び>「ライブ配信」について不具合がありました。当日時間を確保していただいている受講者の皆様に改めてお詫びいたします。(その後、代替措置として講演録画を2月28日まで配信しました。)

(事務局)

○コロナ禍で起きていることに  
ついて人権という視点、視座、  
視野によって見えていくもの、

○今までの人権課題の哲学的な  
分析がなされていたと思う。生  
命観、人生観を問うという提起  
であった。

○いのちへの向き合い方を改  
めて考えさせられる講演だっ  
た。人権教育・啓発の大切さ、  
ニューノーマルな時代には特  
に必要だと感じた。

○改めて私の身のまわりに様  
々な命にかかる排除の歴史

報 告 2020.10.13(日)

第1回外国人部会／第2回ジェンダー部会  
「映画から外国人の人権を考える」  
外国人部会部会長 松本京子

2020年の外国人部会第1回目は、新型コロナウイルスの影響で開催が半年ほど伸び、感染対策を守って12月に北九州市立八幡西生涯学習総合センターで開催しました。今回の主題は「映画から外国人の人権を考える」でした。

映画の選択と講師は『リベラシオン』誌上で「映

画紹介」の連載を担当されている吉田到さんです。選ばれた映画は『マダム・イン・ニューヨーク』(2012年)。「姪の結婚式の為に単身アメリカに行くことになった平凡なインド人主婦が、家族の中で唯一英語が出来ないコンプレックスを克服するために滞在先のニューヨークで英会話学校に通い、様々な人との出会いを通して、言葉だけでなく人間としての尊厳を取り戻していく物語」です。

ガウリ・シンデー監督が女性であることもあってジェンダー視線も多分にあるところからジェンダー部会との共催でした。映画の詳細は『リベラシ

オン』158号をご参照ください。映画鑑賞の後、意味を持ちます。日本語を学びたい人たちにどこ講師の吉田さんの話があり、参加者もそれぞれ感想を述べました。今回の参加者は18人(研究所会員8人)で、北九州映画サークルにも案内をして3人の参加がありました。

NYで英語が通じずに主人公がとても辛い経験をする場面がありました。参加者で聴覚障害がある女性が「外国で言葉がわからなくて辛い思いをするのは、私たち聴覚障害者と同じ」と言いました。先生の言うことが聞こえず理解できなかった、勉強ができないといじめられた辛い経験があるそうです。

職場で罵声を浴びせられ、暴力を振るわれる移住労働者がいます。失踪する人も絶えません。日本人がやりたがらない仕事をし、労働力不足を補っているのがこの外国籍の労働者たちです。彼女たち・彼らとの共存を考える時、言葉は大きな

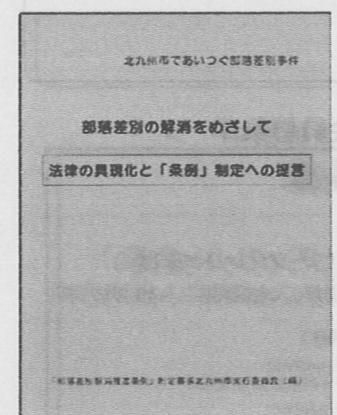
意味を持ちます。日本語を学びたい人たちにどこでもそのチャンスがあること、私たちがわかりやすい日本語で話すこと、が必要だと思いました。

<報告>  
第6回部落問題・人権問題に取り組む全国研究所交流会が、2021年1月22日(金)Web会議形式で開催されました。

本研究所からは、新谷恭明理事長、谷口研二事務長、迫本幸二事務次長が参加しました。

はじめに、講演「『同和地区』情報のタブー化の危機」(東日本部落解放研究所／吉田勉さん)がありました。(研究、運動、行政、司法、教育等が直面する重要な課題です。今後、部会等で研究を深めます。)

その後、参加7研究所の取組や課題について意見交流を行いました。



### 図書紹介

「部落差別解消推進条例」制定要求北九州市実行員会(会長=新谷恭明・本研究所理事長／西南女学院大学教授)が『北九州市であいつぐ部落差別事件 部落差別の解消をめざして 法律の具体化と「条例」制定への提言』を発刊した。国の「部落差別解消推進法」が成立した2016年以降、各地での条例制定の取り組みや条例を活用した実践に取り組む人たちにぜひ一読してもらいたいブックレットとなっています。

価格：600円(別途送料が必要)

問合せ：部落解放同盟北九州地区協議会

TEL093-922-1511 / FAX093-922-1599

### 研究所出版物を無料で差しあげます

□本研究所の前身「福岡部落史研究会」「福岡県部落解放・人権研究所」が「社団法人」に移行する以前の出版物を無料で差しあげます。その一部を紹介します。

#### 【機関誌】

◆福岡部落史研究会機関誌『部落解放史・ふくおか』(111~113号)

◆福岡県部落解放・人権研究所機関誌『人権・ふくおか』(No.5-1~No.5-2)

#### 【ブックレット菜の花】

部落解放同盟小倉地区協議会編『部落(むら)が語りかけるとき』

福岡部落史研究会編『人権教育のための国連10年-それぞれの行動計画と新しい「同和」教育』

【学術書】『福岡県被差別部落史の諸相』『筑前国革座記録』(上・中・下 全3巻)

<来所受け取りは無料。発送の場合は、手数料500円+送料実費がかかります。>

## 事/務/局/日/誌/か/ら (2021年1月1日～2月28日)

1月

- 4月 仕事はじめ  
 12火 第30回事務局会  
 16土 第6回部落史研究部会兼史・資料プロジェクト（古賀市）  
 19火 第31回事務局会、第117回松本・井元研究会  
 20水 吉塚合同庁舎消防隊通報訓練  
 22金 第6回部落問題・人権問題に取り組む全国研究所交流会Web会議  
 24日 松本・井元研究会打合会  
 26火 第32回事務局会  
 31日 委託研究プロジェクト申請締切

2月

- 2火 第33回事務局会  
 5金 「啓発担当者のための人権講座」ホール打合せ（福岡市）  
 ライブ配信URLメール一斉配信  
 6土 第7回教育部会（福岡市）  
 7日 第5回執行理事会、研究プロジェクト選考員会  
 9火 2020年度啓発担当者のための人権講座（福岡市）  
 13土 第7回部落史研究部会兼史・資料プロジェクト（古賀市）  
 16火 第35回事務局会、第118回松本・井元研究会

※ 住民意識調査や実態調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請・報告や公益法人関係事務、関係機関・団体との連携・調整事務等については一部省略しています。（場所を示していないものは、研究所事務局で行っています。）

定期購読しませんか

## 月刊「部落解放」

人権問題・部落問題に取り組むために役立つ雑誌です。

3月申込から4月号。

月刊 660円×12冊=7,920円

増刊 1,100円×年4冊=4,400

合計12,320円／年

\*申込は同封のビラで



&lt;会員募集中&gt;

## 会員募集

## A会員

## B会員(ブックレット会員)

公益社団法人福岡県人権研究所

## [会員と会員特典]

A会員 年会費 6,000円。  
機関誌『リベラシオン』年4冊B会員 年会費 3,000円  
ブックレット「葉の花」年1冊（他、加入時1冊）  
特典 ①ニコース「リベラシオン」の配布（年6回）  
②当研究所主催研修会の参加費の減額  
③当研究所所蔵の図書・史料の利用 等**Human Rights Human Rights**

&lt;問合せ&gt;公益社団法人福岡県人権研究所 Tel 092-645-0388

## 会費納入についてのお願い

\*ゆうちょ銀行の「自動払込手続き」で会費納入のご協力を！

\*本研究所会員の皆様の会費は、研究所運営の生命線です。  
 会費の納入についての経費の節約のためゆうちょ銀行の「自動払込」の手続きをお願いしています。（払い込み手数料が少なくてすみます）

手続き① ゆうちょ銀行に口座をつくる。

手続き② 「自動払込利用申込書」を記入、押印し研究所に郵送する。

◇ 払込先口座の記号・番号

【加入者名】公益社団法人福岡県人権研究所

【口座記号】01760-9-11542 ◇ 「自動払込利用申告書」  
は、郵便局にあります。